

# 新基地建設反対名護共同センター ニュース

## 軍事費に流れる国民の税金を被災地の人々に

### 第四〇回県民大行動に 約八五〇人

名護市辺野古の新基地建設に抗議する県民大行動が、二月三日(土)にオール沖縄会議主催で辺野古の米軍キャンプシユワブゲート前で開催、約八五〇人が参加しました。



照屋義美副知事も参加し、デニー知事が全国の人たちに考えてもらうために、身を粉にして「トークキヤラバン」を行っている」と強調。「辺野古問題は国民全体の問題。共に頑張つて行こう」と全国との連帯を強くよびかけました。

オール沖縄会議の糸数慶子共同代表は「政府は沖縄の声を聞かず、完成見込みがない工事をすすめていく」と国民の税金の無駄遣いを強く批判しました。

スウェーデンの大学教授二人が参加され、「長年にわたり忍耐強く抵抗運動が継続していることに感銘を受けた」と話し、抵抗運動において「問題に関わる人々の三・五%が運動に参加すれば止められる。」という米研究者のデータを増やしていくことが重要だと語りました。



## 沖縄市、弾薬庫建設反対の取り組み 前川盛治

岸田内閣は、昨年12月に安保関連3文書を、国会論議なし、国民に信を問うことなく閣議決定しました。この3文書はこれまでの日本国の安全保障政策を大転換する、いわゆる専守防衛をかなぐり捨て、米国と一緒に戦争をする国への大転換であり、憲法9条に違反するものであり、許されません。

また、この3文書は、沖縄を含む南西諸島の自衛隊の強化(沖縄の自衛隊第15旅団を「師団」に格上げ、スタンドオフミサイルをはじめ、弾薬、誘導弾を増やし、保管する火薬庫を整備。米軍の火薬庫の共同使用も検討)を掲げています。

その具体化が、沖縄市池原への陸自補給拠点(基地)建設の問題です。

2023年1月に沖縄防衛局長が沖縄市長に計画を説明しています。

説明された計画の内容は、「自衛隊の活動に必要な弾薬や燃料、築城資材などの補給品を備蓄・管理する。今後隊庁舎や火薬庫、倉庫、燃料施設などを整備する予定。備蓄する弾薬の種類は現在検討中」でした。ミサイルの保管庫は隠されています。

説明後、桑江市長は「安全保障上の問題は国の専権事項。私が拒否するか容認する立場にはない」とコメントしています。その後議会では「必要である(容認)」と答弁しています。許されません。

この土地の賃貸借契約書には使用目的は「訓練地」とあり、「弾薬庫建設」は契約に反します。また、この土地は「沖縄市

有地72%」であり、市長は「容認しない」権利があります。

その後、2023年8月に防衛省は、「弾薬庫、施設、隊庁舎など整備費として23億円を支出する」と公表しています。沖縄市民は、「弾薬庫等建設に反対する沖縄市民の会」を立ち上げ、市長への抗議、市民集会、現地調査、うるま市等との共同行動などに取り組んでいます。



### 広島から辺野古の応援にきました

一月二日から三泊四日で沖縄旅行に三人で行った。暖かいはずの沖縄も今期最低の気温。風邪が強くて寒かった。磯野さんが名護共同センターに連絡を取り、現地の方の案内で、充実した時間を過ごすことが出来た。

沖縄三日目について辺野古に行った。一回目の座り込みは九時前からだった。キャンプシユワブのゲート前に皆さんが椅子を並べて座り込んだ。初めてだったのでそこがどんな場所か分からなかったが、ふと振り返ると微動だにしない警備員が私たちの後ろにぎっしり詰めて立っていた。ゲート前を開けるように呼びかける警備員。全く無視してこちらは歌ったり演説したりして集会を続ける。九時になると沖縄県警の警察官が立ちのくように呼びかける。みんな無視して座っていると、機動隊三人組で座り込みの人を一人ずつ抱えあげてゲート前から連れ出して行く。強制撤去。隣の磯野さんが抱えられて連れて行かれた。胸が高鳴る。「立って歩いて行かれますか?」に「ハイ」と答えてしまった。(緑色の幌)が開けられた。土砂や石を積んだ大きなトラック五〇台が延々と続いて入っていく。その間二五分。私たちはゲート前でプラスタを掲げてシユプレヒコール。なぜか涙が込み上げてきた。

座り込みが終わるとテントに帰って、甘酒を頂いた。全国各地からの応援者の挨拶。岡山・埼玉・愛知・鳥取など。大学を1年間休学して詰めてきているという学生さん二人。私たち広島三人組もプラスタを持って一言ずつ挨拶した。

帰り道、埋め立てられる大浦湾を高台から眺めた。広い。サンゴ礁の広がる綺麗なこの海が無くなってしまう。

自然を壊すなど叫びたい。県民の総意を無視しての国の代執行、絶対許せない。怒りが込み上げてきた。

